

## 総 説

# 網膜疾患に対する低侵襲硝子体手術の開発

門之園 一 明

横浜市立大学大学院医学研究科 視覚再生外科学

**要 旨：**硝子体手術は、今から40年前に米国で開発され近年目覚ましく進歩し網膜疾患の治療に貢献して来ている。網膜疾患は、裂孔原性網膜剥離、増殖糖尿病網膜症、黄斑上膜、黄斑円孔、加齢黄斑変性など多岐にわたり、これらの疾患はすべて、硝子体手術の適応である。私たちの教室では、これまでいくつものあたらしい硝子体手術術式を開発してきた。私たちのオリジナルアイデアである内境界膜剥離術式、網膜血管内治療、小切開硝子体手術、強膜内固定手術、など多くの手術術式が、現在の硝子体手術に広く活用され、患者さんの良好な視機能の獲得に貢献している。また、近年急速に増加している加齢黄斑変性症の分子標的薬治療の臨床研究も精力的に進め、今後、低侵襲硝子体手術を応用した細胞治療などのあたらしい加齢黄斑変性症の治療の開発が期待される。

**Key words:** 加齢黄斑変性 (age-related macular degeneration), 低侵襲手術 (less invasive surgery), 黄斑疾患 (macular diseases), 内境界膜 (internal limiting membrane), インドシアニングリーン (indocyanine green), 硝子体手術 (vitrectomy)